



## レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 11 回研修会・交流会



梅雨の中休みとなった 2018 年 6 月 14 日（木）BiVi 福岡 で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第 11 回研修会・交流会を開催しました。顧問医の坪井義夫先生のレクチャーと、ユマニチュードの DVD を使った勉強会を行いました。31 名の参加があり、このうちご本人が 2 名、初参加の方が 8 名でした。

### レクチャー「レビー小体型認知症について」

顧問医である坪井先生から、レビー小体型認知症の診断と治療、ケアについて事例や画像を交えて説明が行われました。これまでの交流会で出された介護の問題点をもとに、アドバイスが行われました。さらに今回は、「ユマニチュード」がテーマです。その概要を、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の 4 つの柱に沿ってお話しされました。

### 特別企画「ユマニチュードのDVDを使った勉強会」

#### ～優しい認知症ケア ユマニチュード～

福岡市では、健康先進都市を目指し「福岡 100～人生 100 年時代の健寿社会モデルをつくる 100 のアクション～」を行っています。その一つとして、認知症コミュニケーション・ケア技法である「ユマニチュード」を積極的に取り入れています。

ユマニチュードとは、フランスで生まれた認知症ケアのことで、「人間らしさを取り戻す」という意味があります。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の 4 つの柱からなり、人と人との関係性、つまり、お互いを尊重し合い、他者とポジティブな関係を築くことができるケア技術のことです。これは、介護者が一方的与えるケアのことではなく、お互いにひとりの人間として尊重しあい、愛の絆を築くことができると言われています。

勉強会で用いた DVD は、ユマニチュードを作り上げたイヴ・ジネストさんへのインタビューをもとに、ユマニチュードの背景や哲学、そして実践を伝えています。今回は、交流会

に参加されているご家族が出演されている第3巻「私のユマニチュード—家族の実践編」を視聴しました。DVDでは、ジネストさんが2組のご家族のご自宅に訪れて、ご家族とともにケアを実践されました。ケアを行ったあのご家族は、「心にゆとりができた。心が優しくなった。よく笑うようになった。」と話されていました。特に、「未来が明るいと思えるようになった。」という言葉が印象的でした。

また、ジネストさんは「立つ」ことの重要性もお話しされました。ご家族の負担にならないようにしながら認知症の方に立ってもらうこと、たとえば、朝、歯を磨くときに2分、服を着替えるときに2分というように、少しずつできるだけ車椅子を使わないようにして、最低でも1日20分立つことが大事だとお話しされました。

## グループワーク

2つのグループに分かれ、それぞれに顧問医の坪井先生、協力医の合馬先生が入られてディスカッションを行いました。その一部をご紹介します。

- 周囲の対応が変わったことで精神症状が落ち着くことができた。
- 入院を契機に悪化した事例もあり、医療者の対応も大事だと気づくことができた。
- 幻覚は本人にとって不安が大きい。昔の記憶や本で読んだことが出てくることもある。必ずしも消す必要はなく、うまく付き合うことが必要である。
- 愛情は技術と言われている。話し方を変えることで成功することもある。

最後に、下村代表からお知らせがありました。

1. 今回から本研修会・交流会の参加によって「認知症ケア専門士」の単位取得（2単位）ができるようになりました。
2. 認知症疾患ならびにケアに対する啓発活動と社会への発信を協働で行うことを目的に、「認知症関係当事者・支援者連絡会議」が立ちあがりました。「公益社団法人 認知症の人と家族の会」「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会」「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」「レビー小体型認知症サポートネットワーク」の4つの団体が活動し

ています。詳しくは、ホームページを御覧ください。

3. 介護・医療・福祉専門職向け DLB 研修「知って納得！DLB の病態とケア」が  
7月22日（日）13時～16時にウェル戸畑福祉会館 8階で開催されます。

次回の研修会・交流会は、2018年9月13日（木）18時～です。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織